

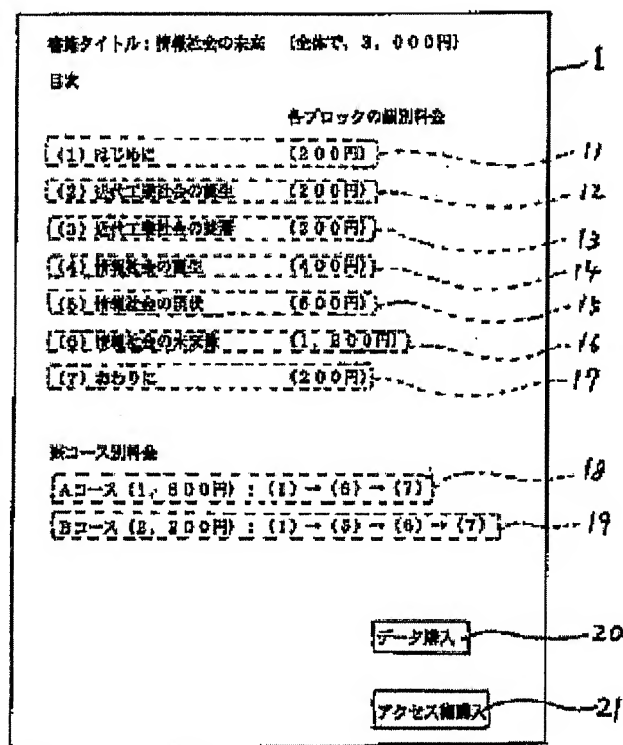
METHOD AND SYSTEM FOR PROVIDING CHARACTER CONTENTS AND CHARACTER CONTENTS DISCLOSING DEVICE

Patent number: JP2000285174
Publication date: 2000-10-13
Inventor: KUJIRADA MASANOBU
Applicant: KUJIRADA MASANOBU
Classification:
 - international: G06F13/00; G06Q30/00; G06Q50/00; G06F13/00;
 G06Q30/00; G06Q50/00; (IPC1-7): G06F17/60;
 G06F13/00
 - european:
Application number: JP19990168095 19990615
Priority number(s): JP19990168095 19990615; JP19980186924 19980616;
 JP19990017746 19990126

Report a data error here

Abstract of JP2000285174

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide network provision type character contents providing method and system capable of collecting and selecting profitable information on the basis of the intuition of a user.
SOLUTION: These character contents providing method and system are provided with a character contents disclosure step for disclosing entire magazine, book or newspaper contents constituted by coupling plural character contents blocks respectively having titles, texts and one kind of summarized contents through a communication network to the user free of charges or with prescribed time charges, a block selection step for the user to take a general view of disclosed character contents and to select just one or plural desired character contents blocks, a block provision or sale step for providing or selling the access right or data of the block selected by the user to the user and a payment step for the user to pay charges corresponding to the provided or sold blocks simultaneously with or before or after the provision or sale step.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	キーワード* (参考)
G 0 6 F 17/60		G 0 6 F 15/21	3 3 0 5 B 0 4 9
13/00	3 5 4	13/00	3 5 4 Z 5 B 0 8 9
		15/21	Z

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願平11-168095	(71) 出願人	595100934 鯨田 雅信 福岡県北九州市小倉南区徳力新町 2-1-11 (鯨田ビル1 F)
(22) 出願日	平成11年 6 月15日 (1999. 6. 15)	(72) 発明者	鯨田 雅信 福岡県北九州市小倉南区徳力新町 2-1-11 (鯨田ビル1 F)
(31) 優先権主張番号	特願平10-186924	F ターム (参考)	5B049 AA05 BB15 CC08 CC36 DD01 DD05 EE05 FF03 FF09 GG04 GG07 5B089 GA11 GB03 JA40 JB01 KA15 KB13
(32) 優先日	平成10年 6 月16日 (1998. 6. 16)		
(33) 優先権主張国	日本 (J P)		
(31) 優先権主張番号	特願平11-17746		
(32) 優先日	平成11年 1 月26日 (1999. 1. 26)		
(33) 優先権主張国	日本 (J P)		

(54) 【発明の名称】 文字コンテンツ提供方法及びシステム並びに文字コンテンツ開示装置

(57) 【要約】

【課題】 ユーザーの直感による有益な情報の収集及び選別を可能にするネットワーク提供型の文字コンテンツ提供方法及びシステムを提供する。

【構成】 それぞれがタイトル及び本文を有し一つの纏まりのある内容を有している文字コンテンツ・ブロックが複数個結合されて成る雑誌、書籍又は新聞コンテンツの全体を、通信ネットワークを介して、ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する文字コンテンツ開示ステップ、ユーザーが、前記の開示された文字コンテンツを概観して、自分の希望する文字コンテンツ・ブロックを一つ又は複数個だけ選択するブロック選択ステップ、前記のユーザーが選択したブロックのアクセス権又はデータを、ユーザーに提供又は販売するブロック提供又は販売ステップ、前記の提供又は販売ステップと同時に又はこれと相前後して、ユーザーが前記提供又は販売を受けたブロックに対応する料金を支払う支払ステップ、を含むことを特徴とする文字コンテンツ提供方法及び、そのためのシステムである。

書籍タイトル：情報社会の未来 (全体で、8,000円)		1
目次		
各ブロックの個別料金		
(1) はじめに	(200円)	11
(2) 近代工業社会の誕生	(200円)	12
(3) 近代工業社会の終焉	(200円)	13
(4) 情報社会の誕生	(400円)	14
(5) 情報社会の現状	(600円)	15
(6) 情報社会の未来像	(1,200円)	16
(7) おわりに	(200円)	17
※コース別料金		
Aコース (1,600円) : (1) → (6) → (7)		18
Bコース (2,200円) : (1) → (5) → (6) → (7)		19
データ購入		20
アクセス権購入		21

【特許請求の範囲】

【請求項1】 「それぞれがタイトル及び本文を有し一つの纏まりのある内容を有している文字コンテンツ・ブロック」が複数個結合されて成る雑誌、書籍又は新聞の文字コンテンツの全体（目次・見出し及び本文の全体）を、通信ネットワークを介して、ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する文字コンテンツ開示ステップ、
ユーザーが、前記の開示された文字コンテンツを見て、自分の希望する文字コンテンツ・ブロックを一つ又は複数個だけ選択するブロック選択ステップ、
前記のユーザーが選択したブロックのデータ又はデータアクセス権を、ユーザーに提供又は販売するブロック提供又は販売ステップ、
前記のブロック提供又は販売ステップと同時に又はこれと相前後して、ユーザーが前記の提供又は販売を受けたブロック（1つのコンテンツの全ブロックを含む）のデータ又はデータアクセス権に対応する料金を支払う支払ステップ、を含むことを特徴とする文字コンテンツ提供方法。

【請求項2】 「それぞれがタイトル及び本文を有し一つの纏まりのある内容を有している文字コンテンツ・ブロック」が複数個結合されて成る雑誌、書籍又は新聞の文字コンテンツの全体を記録する文字コンテンツ記録手段と、
前記文字コンテンツの全体（目次・見出し及び本文の全体）を、通信ネットワークを介して、ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する文字コンテンツ開示手段と、
ユーザーが選択した一つ又は複数のブロック（1つのコンテンツの全ブロックを含む）のデータ又はデータアクセス権に対応する価格をユーザーに提示する価格提示手段と、
ユーザーが選択した一つ又は複数のブロック（1つのコンテンツの全ブロックを含む）のデータ又はデータアクセス権を、ユーザーに提供又は販売するブロック提供又は販売手段と、を備えた文字コンテンツ提供システム。

【請求項3】 請求項1において、
前記文字コンテンツ開示ステップは、コンテンツの全体を、所定時間だけ、無料又は所定のタイムチャージ料金で開示するものである、文字コンテンツ提供方法。

【請求項4】 請求項2において、
前記文字コンテンツ開示手段は、コンテンツの全体を、所定時間だけ、無料又は所定のタイムチャージ料金で開示するものである、文字コンテンツ提供システム。

【請求項5】 請求項1又は3において、さらに、
前記のユーザーがデータ又はデータアクセス権の提供又は販売を希望するブロックを選択するときの参考とするために、前記ブロックの幾つか又は全てについてそれぞれ予め付与された価格を、通信ネットワークを介して、

ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する価格開示ステップ、を含むことを特徴とする文字コンテンツ提供方法。

【請求項6】 請求項2又は4において、さらに、
前記ブロックの幾つか又は全てについて、それぞれ予め付与された価格を記録する価格記録手段と、
前記各ブロックの価格を、通信ネットワークを介して、ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する価格開示手段と、を備えたことを特徴とする文字コンテンツ提供システム。

【請求項7】 「それぞれがタイトル及び本文を有し一つの纏まりのある内容を有している文字コンテンツ・ブロック」が複数個結合されて成る雑誌、書籍又は新聞の文字コンテンツ（目次・見出し及び本文）の全体又はその一部を、ネットワークを介してユーザーに開示するための文字コンテンツ開示装置であって、
前記コンテンツの全体又は一部と、前記コンテンツの全体又は各ブロックについてそのデータ又はアクセス権を購入するかどうかをユーザーに判断させるために必要な情報とを、ユーザーに、無料で又は所定のタイムチャージ料金で開示する文字コンテンツ開示装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ネットワークを介して、書籍、雑誌、又は新聞の文字コンテンツ（目次・見出し及び本文）を提供するための文字コンテンツ提供方法及びシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来より、インターネットなどのネットワークを介して、新聞や雑誌を電子メールやホームページなどの形で提供する「電子新聞サービス」「電子雑誌サービス」が知られている。これらのサービスの中には、ユーザーが予め興味がある分野のキーワードを登録しておいて、そのキーワードを含む記事のみを提供するものもある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】確かに、前記のユーザーが予め指定したキーワード（自分の仕事と関連するキーワード）を含む記事のみを提供する方法によれば、ユーザーが全ての記事から自己が関心のある記事のみを選別する作業をある程度省略することができる。しかし、我々の日常において、実際には、自分の仕事と関連するキーワードを含まない分野の記事（本明細書での「記事」という用語は、「新聞・雑誌・書籍などの各コンテンツを構成する各ブロック」という意味で使用している）、すなわち、「異業種の分野に関する記事」や「仕事とは関係のない分野の記事」などから、自己の仕事に極めて有用なヒントを得ることは少なくない。例えば、

（1）本屋に立ち寄って書棚に並べてある本を無作為に手にとってその目次や本文をバラバラとめくってみて

（「立ち読み」してみても）「面白そうだ」と直感した部分があればその本を買って自宅で読むとか、（２）新聞を広げて一覧しながら「面白そうだ」と直感した記事

（それが自己の仕事に関連するキーワードを含んでいるか否かに関わらず）について熟読してみても、保存しておく必要があると思えばその記事のみを切り取ってスクラップしておくとか、（３）本屋で雑誌を手にとって、その目次や本文をパラパラとめくってみても「面白そうだ」と直感した記事があればその雑誌を購入してその記事を熟読し、保存しておく必要があると判断すればその記事だけ切り取ってスクラップしておく、などの作業を、我々は日常的に経験している。以上のことから、「ユーザーにとって何が有用な記事であるか」は、ユーザーの「直感」などによりユーザー自身が決めるしかなく、予め指定されたキーワードなどでコンピュータが選別するだけでは不十分である、ということができる。

【０００４】本発明はこのような従来技術の課題に着目してなされたもので、「ユーザーの直感」による有益な情報の収集及び選別を可能にするネットワーク提供型の文字コンテンツを提供するための方法及びシステム（なお、本明細書において、「文字コンテンツ」という用語は、文字だけでなく画像をも部分的に含むものでもよい）、並びに文字コンテンツ開示装置を提供することを目的とする。

【０００５】

【課題を解決するための手段】最初に、本明細書における用語の定義を説明する。本明細書における「ブロック」「文字コンテンツ・ブロック」「文字コンテンツ（見出し、目次、及び本文）」には、文字だけでなく、表、グラフ、図形、画像などのデータをも部分的に含むものでもよい。また、本明細書において、「タイトル」とは、「見出し」又は「小見出し」を言い、雑誌や書籍や新聞の全体の題名だけでなく、それらの中の各ブロック（章節や記事）の小見出しをも含む。本発明の内容は、次のようなものである。

１．「それぞれがタイトル及び本文を有し一つの纏まりのある内容を有している文字コンテンツ・ブロック」が複数個結合されて成る雑誌、書籍又は新聞の文字コンテンツの全体を、通信ネットワークを介して、ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する文字コンテンツ開示ステップ、ユーザーが、前記の開示された文字コンテンツを概観して、自分の希望する文字コンテンツ・ブロックを一つ又は複数個だけ選択するブロック選択ステップ、前記のユーザーが選択したブロックのアクセス権又はデータを、ユーザーに提供又は販売するブロック提供又は販売ステップ、前記の提供又は販売ステップと同時に又はこれと相前後して、ユーザーが前記提供又は販売を受けたブロック（１つのコンテンツに含まれる全ブロックでもよい）に対応する料金を支払う支払ステップ、を含むことを特徴とする文字コンテンツ

提供方法。

２．「それぞれがタイトル及び本文を有し一つの纏まりのある内容を有している文字コンテンツ・ブロック」が複数個結合されて成る雑誌、書籍又は新聞の文字コンテンツの全体を記録する文字コンテンツ記録手段、前記コンテンツの全体を、通信ネットワークを介して、ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する文字コンテンツ開示手段と、ユーザーが選択したブロック（１つのコンテンツに含まれる全ブロックでもよい）に対応する価格をユーザーに提示する価格提示手段と、ユーザーが選択した一つ又は複数のブロックのアクセス権又はデータを、ユーザーに提供又は販売するブロック提供又は販売手段と、を備えた文字コンテンツ提供システム。

３．上記１において、前記文字コンテンツ開示ステップは、コンテンツの全体を、所定時間だけ、無料又は所定のタイムチャージ料金で開示するものである、文字コンテンツ提供方法。

４．上記２において、前記文字コンテンツ開示手段は、コンテンツの全体を、所定時間だけ、無料又は所定のタイムチャージ料金で開示するものである、文字コンテンツ提供システム。

５．上記１において、さらに、前記のユーザーがアクセス権又はデータの提供又は販売を希望するブロックを選択するときの参考とするために、前記ブロックの幾つか又は全てについてそれぞれ予め付与された価格を、通信ネットワークを介して、ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する価格開示ステップ、を含むことを特徴とする文字コンテンツ提供方法。

６．上記２において、さらに、前記ブロックの幾つか又は全てについて、それぞれ予め付与された価格を記録する価格記録手段と、前記各ブロックの価格を、通信ネットワークを介して、ユーザーに、無料又は所定のタイムチャージ料金により開示する価格開示手段と、を備えたことを特徴とする文字コンテンツ提供システム。

７．「それぞれがタイトル及び本文を有し一つの纏まりのある内容を有している文字コンテンツ・ブロック」が複数個結合されて成る雑誌、書籍又は新聞の文字コンテンツの全体又はその一部を、ネットワークを介してユーザーに開示するための文字コンテンツ開示装置であって、前記コンテンツの全体又は一部と、前記コンテンツの全体又は各ブロックについてそのデータ又はアクセス権を購入するかどうかをユーザーに判断させるために必要な情報とを、ユーザーに、無料で又は所定のタイムチャージ料金で開示する文字コンテンツ開示装置。

【０００６】

【発明の実施の形態】実施形態１．本発明の実施形態１による「電子書籍の章節（コンテンツ・ブロック）別の提供システム」を説明する。図１は、本実施形態１による、ある電子書籍（書籍タイトル：情報社会の未来）の

全体を、ネットワーク例えばインターネットのホームページを介して、ユーザーに開示するときの画面を示すものである。本実施形態1では、ユーザーがあるタイトルの電子書籍の開示を希望すると、ホームページ画面が「開示モード（立ち読みモード）」になり、まず、図1に示すような、書籍タイトル、目次、各章節（コンテンツ・ブロック）毎の個別料金、コース別料金が表示されたフロントページ（トップページ）画面1が表示される。ユーザーは、このフロントページ画面1を見ながら、例えば、符号16で示す「（6）情報社会の未来像」の領域を指定する（マウスなどでクリックする）と、「（6）情報社会の未来」の本文が画面表示される。ユーザーは、この「開示モード（立ち読みモード）」の中で、前記の図1の符号16のブロックの本文を開示させたのと同じ要領で、他のブロック（章節）11、12、13、14、15、17などを指定して、その本文を表示させて、自分が読む価値があるものか否かを判断することができる。

【0007】なお、本実施形態では、この「開示モード（立ち読みモード）」では、本文は画像データとして表示され、テキストデータに比べて「小さく読みにくい不鮮明な文字」で表示されるようになっている（あるいは、この「開示モード（立ち読みモード）」においては、通常のテキストデータの文字表示画面よりも解像度（画素数）の劣化した表示画面としてユーザーに提供するようにしてもよい。これは、「開示モード」が無料又は小額のタイムチャージ料金により提供する「立ち読み」モードであるため、有料のコンテンツ提供サービスに比べて「少し劣化したサービス」を提供するようにする、という趣旨である）のが望ましい（なお、この「開示モード」でも、解像度の高い鮮明なテキストデータとして表示させてもよい、ことは勿論である）。また、この開示モードは、最初の3分間だけは「無料」であるが、最初の3分間を経過した後は、1分間毎に例えば10円から100円程度の小額のタイムチャージ料金がユーザーに課されるようになっている。なお、本実施形態において、前記「開示モード（立ち見モード）」では、最初の所定時間例えば3分間のみ無料で開示して3分間経過後は開示を停止するようにしてもよいし、また、最初から1分間毎に例えば10円から100円程度のタイムチャージ料金をユーザーから徴収するようにしてもよい。

【0008】ユーザーは、この「開示モード」を利用することにより、言わば「本屋で立ち読み」する感覚で、その開示されたブロックの本文（例えば、前記の符号16で示す「（6）情報社会の未来像」の本文（図表や挿し絵などの画像を含む）や他のブロックの本文をざっと斜め読みしながら、その本文の各「ブロック（章節）」又はその「書籍そのもの（書籍の全てのブロック）」は自分にとって読む価値があるか否か、その書籍の中の読

む価値がある部分（章節＝ブロック）はその書籍の全体の中でどの部分どの箇所か、などを判断することができる。以上のように、この「開示モード（立ち読みモード）」は、ユーザーに書籍の内容（文字コンテンツ）を「読ませる」ためのものではなく、ユーザーに、その書籍（コンテンツ）の内容やその書籍の全体又はその書籍の各章節（ブロック）の内容が果たして「自分（ユーザー）にとって読む価値があるかどうか」すなわち「その書籍（コンテンツ）の全体又はその中の各ブロックが、有料でデータ又はデータアクセス権の提供又は販売を受けるだけの価値があるものであるかどうか」を判断させるために、それに必要な限度で、前記「コンテンツ全体又はその中の各ブロックの文字コンテンツ」を開示するものである。つまり、この「開示モード（立ち読みモード）」は、「その電子書籍（コンテンツ）の全体の価値又はその電子書籍の中の個々のブロックの価値」をユーザーにチェック・判断させるためのものである。

【0009】そして、ユーザーが、この「開示モード（立ち読みモード）」において、例えば図1の符号16で示す「（6）情報社会の未来像」というブロックのみは「読む価値（データ又はデータアクセス権の提供又は購入を有料で受ける価値）」があると判断したときは、まず、前記の符号16で示すブロックを指定（クリック）して、図1の符号20で示す「データ購入」のボタン又は図1の符号21で示す「アクセス権購入」のボタンをクリックすることにより、データ又はアクセス権を購入する。なお、ここで、符号20の「データ購入」とは、前記「（6）情報社会の未来像」のブロックの本文のデータ（テキストデータ及び画像データ）をネットワークを介してユーザーのパソコンの記録装置の中にダウンロードすること、である。また、符号21の「アクセス権購入」とは、ユーザーが、このホームページの中で、前記の「（6）情報社会の未来像」の本文を、比較的大きな読みやすいテキストデータの形（解像度の高い鮮明な文字画面の形）で画面表示させながら、ネットワークを介して自由に（時間は無制限に自由に、又は、所定の時間だけ例えば5時間だけ自由に）アクセスして読むことができる権利を購入すること、である（この「アクセス権」を購入したユーザーは、購入時に与えられたユーザーIDとパスワードとを使用して、例えば所定の期間だけ又は永久に、自由に前記ホームページにアクセスして、購入の対象となったブロックの本文を閲覧することができる）。なお、購入の代金の決済は、クレジットカード決済、銀行振り込み、デビットカード決済、又は、電子マネーなどにより行われる。なお、本実施形態において、ユーザーは、図1の画面の下方にある「コース別料金」を希望してもよい。例えば「Aコース」は、図1の「（1）はじめに」「（6）情報社会の未来像」及び「（7）おわりに」のブロックのみを提供するものであり、それらのブロックだけ、書籍全体を購入するよ

りも安い料金に設定されている。また、ユーザーは、「開示モード」で各ブロックの内容の価値をチェックした後、その「書籍全体（その書籍全体を構成する全てのブロック）のデータ又はデータアクセス権」を購入することもできる。

【0010】実施形態2。次に、本発明の実施形態2による「電子新聞の記事（コンテンツ・ブロック）提供サービス」を説明する。図2は、本実施形態2において、ユーザーが、インターネットなどのネットワーク上のホームページ（ある新聞社が提供するもの）にアクセスして、ある日の電子新聞のある一つの紙面を開示させて、その中の自分の興味のある一つ又は複数の記事を選択するための「開示モード」の表示画面30を示すものである。図2において、符号31、32、33、34、35、36はそれぞれ、電子新聞（コンテンツ）のある一つの紙面の中に配置（レイアウト）された各記事（各ブロック）を示すものである。なお、図には明示していないが、前記各記事（ブロック）31、32、33、34、35、36には、文字だけでなく表・グラフも含まれ、さらに写真やイラストなどの画像が含まれることもある（前述のように本明細書における「ブロック」「文字コンテンツ・ブロック」「文字コンテンツ」には、文字だけでなく、表、グラフ、図形、画像などのデータを含むものでもよい）。

【0011】従来の紙媒体の新聞では、記事がある紙面の中のどの位置（何処）に配置されているかもユーザーにとってその記事を読む価値があるかどうかを判断する際の重要な判断資料になっている。というのは、紙面の構成やレイアウトは、新聞記者や編集者などの専門家の「価値判断」の表われであるから、ある記事が紙面の中の何処に配置されているかの情報（さらに、それが「囲み記事」であるか、そのタイトルの文字の大きさはどうか、などの情報）は、ユーザーが各記事の価値を判断するに当たって極めて有用な判断材料となる。

【0012】この図2に示すような「開示モード（立ち読みモード）」の画面は、画像データとして表示されるようにし、ユーザーにとっては、精読するのは困難な小さくてやや不鮮明な文字で表示されているのが望ましい（この「開示モード」でも、解像度の高い鮮明な文字として画面表示させてもよい、ことは勿論である）。この「開示モード（立ち読みモード）」は、例えば、最初の3分間のみは無料で提供され、その後は1分間当たり10円のタイムチャージ料金で提供される。なお、本実施形態においては、前記「開示モード」を、所定の時間例えば最初の3分間のみ無料で提供しその後は提供を中止するようにしてもよいし、また、最初から1分間10円などの所定の小額のタイムチャージ料金をユーザーに徴収するようにしてもよい。

【0013】以上のように、前記「開示モード」は、ユーザーに記事の内容を「読ませる」ためのものではな

く、ユーザーにとってその紙面の中の記事が「ユーザーにとって読む価値があるかどうか」を判断させるために、それに必要な限度で、記事を含む紙面の内容をユーザーに開示するものである。つまり、この「開示モード」は、電子新聞の全体の価値又は電子新聞の中の個々の記事（ブロック）の価値をユーザーにチェック・判断させるためのものである。

【0014】ユーザーは、この「開示モード」において、電子新聞の紙面を画面上でざっと眺めながら、自分の興味がありそうな記事（ブロック）や自分にとって有用なヒントを与えてくれそうだと「直感」した記事（ブロック）を選択し、それを例えばマウスでクリックすることなどにより指定・選択する。例えば、ユーザーが、図2の画面30（一つの紙面）の中の記事33と34とを「自分にとって読む価値がある」と判断し、その記事データ（文字データ及び画像データ）をダウンロードしたいと思ったときは、ユーザーは、マウス等で前記記事33及び34をクリックして指定・選択し、その上で、画面30の右下方の「データ購入」のボタン37をクリックすると、前記の記事（ブロック）のデータを自己のパソコンのハードディスクにダウンロードすることができる。また、ユーザーが、データのダウンロードではなくて、ネットワークを介してそのホームページにアクセスして、その記事のコンテンツを精読するためのその「記事（ブロック）に関するアクセス権」（その記事の内容を「比較的大きく見やすい鮮明な文字」で表示させて所定時間だけ又は無制限に自由に閲覧することを可能にする権利。この「アクセス権」を有するユーザーは、権利購入時に与えられたユーザーIDとパスワードを使用して、ホームページのデータベースにアクセスして前記の記事を、いつでも自由に、又は、所定時間・所定期間だけ、閲覧することができる）を希望するときは、前記の希望する記事33、34をクリックして、画面30の右下方の「アクセス権購入」のボタン38をクリックすることにより、データアクセス権を購入することができる。なお、前記のデータ購入又はアクセス権購入の代金の決済は、クレジットカード、銀行振り込み、デビットカード、電子マネーなどで行う。なお、ユーザーは、前記「開示モード」で、その電子新聞のコンテンツの価値をチェックした後に、その新聞の「個々の記事（個々のブロック）」ではなく、その「電子新聞の全体（全体を構成する全てのブロック）のデータ又はアクセス権」を購入することもできる。

【0015】なお、前記の実施形態1は「電子書籍（本）」について、実施形態2は「電子新聞」について述べたが、これらで述べた方式は、ネットワーク上の「電子雑誌」の記事提供サービスなどの他の種類のコンテンツについても、同様に適用することができる。また、前記の各実施形態1、2では、「開示モード（立ち読みモード）」においては無料又は所定のタイムチャー

ジで情報をユーザーに提供するようにしているが、本発明では、「立ち読みモード」においては原則として無料とし、ユーザーが「立ち読みモード」を終了するときには文字コンテンツの全体又はブロックを購入しなかったときは遡って例えば1分当たり10円の料金を「立ち読みモード」の利用料金として課金するようにしてもよい。あるいは、本発明では、「立ち読みモード」においては原則として例えば1分当たり10円の料金が課金されることとするが、ユーザーが「立ち読みモード」終了時に文字コンテンツの全体又はブロックを購入すれば遡って「立ち読みモード」の料金は無料とする（具体的には、文字コンテンツの料金と相殺することとし、課金した「立ち読みモード」の料金だけを文字コンテンツの料金から差し引く）ようにしてもよい。

【0016】

【発明の効果】本発明では、「電子書籍、電子雑誌、電子新聞などの中の所定の章節（ブロック）や記事（ブロック）などの文字コンテンツ・ブロックのデータ又はデータアクセス権を有料で購入するかどうか」をユーザーに判断させるために、まず「開示モード（立ち読みモード）」を採用して、その中で、前記の判断に必要・有益な情報をユーザーに提供するようにしている。したがって、例えば、電子書籍や電子雑誌などでは、ユーザーは、前記「開示モード（立ち読みモード）」での情報提供を、従来の紙媒体の書籍を「本屋で立ち読み」とすると同じような感覚で、ざっとその内容を概観することにより、ある一つ又は複数の各ブロック（各章節の本文、又は、各記事）が、又は、その電子書籍又は電子雑誌の全体が、「自分にとって有料で読む価値・購入する価値があるかどうか」を、自己の直感をも働かせながら判断することができる。また、電子新聞などでは、「開示モード」において、画面上にその電子新聞のある一面の全体を表示するようにしているの、ユーザーは、その一つの面の全体をざっと概観（一覧、一瞥）しながら、その一面の中の記事で「自分にとって有料で読む価値・購入する価値があるかどうか、読む価値がある記事はどれか」を、自分の直感をも働かせながら判断することができる。特に、紙媒体の新聞には、多くの記事をざっと眺めながら自分に有用な記事を見ついたり、一覧・一瞥する中でたまたま偶然見つけた記事を読んで有益なヒントを得るなどといった「一覧性の強み」があるといわれているが、本発明によれば、このような「新聞の一覧性の強み」を、ネットワークを介して提供する電子新聞においても実現できるようになる。

【0017】従来のオンラインを利用した新聞記事などの文字コンテンツ提供サービスでは、文字コンテンツの本文はユーザーに見せないで（つまり、「オンラインでの立ち読み」は認めないで）、記事のタイトル（見出し）や抄録・要約のみを、ユーザーに無料又は低いタイムチャージで見せて、ユーザーに「この記事の本文の文

字コンテンツのデータを購入するかどうか」を判断させるようにしていた。つまり、従来は、前記の「記事のタイトル（見出し）や抄録・要約」だけが、ユーザーが「この記事という文字コンテンツを購入するかどうかを判断するための情報」としてユーザーに無料又は低いタイムチャージで提供されていた。これに対して、本発明では、ユーザーに「オンライン上での立ち読み（文字コンテンツの本文の、無料又は低額のチャージでの閲覧）」を認め、その「立ち読みした内容」に基づいて、その記事などの文字コンテンツの全体又は各ブロックを購入するかどうかを、ユーザーが自己の直感を元に判断できるようにしている。この点も、本発明の大きな特徴となるものである。

【0018】なお、本願の優先日である平成10年6月16日より後に公開された文献であるが、本発明と関連する内容の文献を発見したので、ここで紹介しておく。その文献は、社団法人著作権情報センターが発行した「コピーライト 1999. 1号」である。この文献の48～49頁に、「コピープロテクション技術」の一つとして「カプセル化（又はコンテナ化）システム」が紹介されている。その内容を要約すると、次のとおりである。「カプセル化システムでは、専用ブラウザ（専用プレイヤー）と呼ばれるアプリケーションをユーザーに配布することでこの問題を解決している。カプセル化コンテンツは、そのコンテンツを受信した専用ブラウザでのみ使用できる。コンテンツの暗号化の際に異なった使用許諾条件を設定し、それぞれの許諾条件でのみ使用できる鍵を与えることで、ユーザーの手元にあるコンテンツ・データの使用をコントロールすることができる。また、鍵が無くても一部使用できる（半開示）状態でのコンテンツ配布や使用期間の限定といった多様な許諾条件設定を実行できる。使用例。・サビ部分のみ視聴可能な楽曲や低解像度のプレビューのみ可能な画像といった、半開示カプセル化コンテンツを収録したCD-ROMを無料配布し、完全な状態での使用を許諾する鍵をインターネットで販売する。・パッケージソフト販売のプロモーションとして、限定された期間のみ完全な状態で使用できるカプセル化コンテンツを無料配布する。」

上記で紹介した文献の内容は、「サビ部分のみ視聴可能な楽曲や低解像度のプレビューのみ可能な画像といった、半開示モード」のアイデアや、「限定された期間のみ完全な状態で使用できるという半開示モード」のアイデアを開示している。しかしながら、本発明は、「立ち読みモード」を利用したオンライン上でのコンテンツの各ブロックのデータ又はデータアクセス権の提供又は販売のためのシステムを提案するものであることなど、上記文献の内容とは大きな違いがあることは明らかである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施形態1による開示モードの画面

を示す図である。

を示す図である。

【図2】 本発明の実施形態2による開示モードの画面

【図1】

書籍タイトル：情報社会の未来（全体で、3,000円）		1
目次		
各ブロックの個別料金		
(1) はじめに	(200円)	11
(2) 近代工業社会の誕生	(200円)	12
(3) 近代工業社会の終焉	(200円)	13
(4) 情報社会の誕生	(400円)	14
(5) 情報社会の現状	(600円)	15
(6) 情報社会の未来像	(1,200円)	16
(7) おわりに	(200円)	17
※コース別料金		
Aコース (1,600円) : (1) → (6) → (7)		18
Bコース (2,200円) : (1) → (5) → (6) → (7)		19
データ購入		20
アクセス権購入		21

【図2】

